

FD 学外セミナー参加報告書

氏名：森永真綱

所属/職名：法学部／准教授

参加セミナー名：関関同立法学部合同シンポジウム『法学部生と法学部の未来像—国際化と市場化のなかで—』

セミナー参加日時/場所：平成 26 年 5 月 31 日／関西大学千里山キャンパス

■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

○内容：最初に基調講演として関西学院大学を卒業され、現在三井住友銀行で人事を担当されている方が話された。概要は以下の通り。法学部出身者が多く入行しており、企業の側から見たとき、法学部は不人気ではない。法学部出身者は優秀な人が多く、活躍している部下も多い。法学部に入る学生は、目的意識を持って大学に入学しているという印象を受ける。法学部で学ぶことと国際化は矛盾しない、など。

次に、各大学の法学部の学部長より、各々のカリキュラムに関する説明がなされた（パンフレット参照）。そして以上を踏まえ、休憩後に、パネルディスカッションが行われた。概要は以下の通り。4 大学とも、カリキュラムは似通っている。法学部の特徴は、科目の縛りがほとんどなく、科目選択の自由度が高い点にある。法学部は「つぶしがきく」学部として、以前は人気あったが、最近ではそのようにとられていないのが残念である。どの業界に行っても通用する力を涵養するのが法学部の学修内容であるため、そのことを再認識してほしい。新たな事業を国際的に展開するとき、障壁となるのは法律であるため、リーガルマインドを持った社員は、国際化の流れにおいて、必要とされている人材である。法学部の勉強は難しく、卒業は難しいというイメージがあるが、言葉や思考方法に慣れれば大丈夫であるし、科目選択の自由度が高いので、法律科目を大量にとらなくとも卒業できるようになっている。高校生には、安心して法学部に入学してほしい、など。

○所感・授業や本学への活用について：各大学のカリキュラムを見て感じたことは、関西学院大学を除く三大学で、少人数クラスの授業が 1 年次、2 年次に多く開講され、きめ細やかな学修指導が行われていることを意外に思った。むしろ小規模・少人数を謳っている本学のほうが、マスプロ型が多い。他大学のカリキュラムや人材配置を調査・分析の上、甲南大学法学部においても速やかな改善が求められているのではないかと感じた。